硬すぎず、柔らかすぎず。最高のリンクを舞台に最良の氷づくりを目指して。

世界のトップを狙えるスター選手が続々登場し、すっかり人気の定着したフィギュアスケート。氷上の天使たちが浮かべる笑顔に誘われ、いそいそとアイススケート場へ足を運ぶ方、この冬こそチャレンジしたいと思っている方も少なくないはず。今回は国際的なフィギュアの大会からショートトラック、アイスホッケー、さらには一般開放に利用される大阪プールのリンクを舞台に、それぞれの目的に応じたベストなコンディションの氷づくりに情熱を傾ける奥村健一さんにお話を伺いました。

—あれれ？　この場所って以前、スポ・みどで紹介したような…。

奥村　プールの特集（vol.6）に掲載されました。50mプールと飛び込みプールのあるメインアリーナが、冬期にはアイススケートリンクに変わるんです。

—どのように変身するんですか？

奥村　まずはプールの水を抜き、可動式の床をプールサイドより高く上昇させます。次に床の上をシートや断熱材で養生し、冷却パイプを設置。パイプの間隔が異なると、氷の強度まで違ってくるので慎重に並べます。長さ30メートル以上のパイプを8センチ間隔で、750本も敷き詰めるんですよ。

—手間がかかるんですねえ。

奥村　パイプに不凍液を流して-12～-13℃にまで冷却。そして、ここからが本当に難しい作業。水を撒いて土台の根氷（ねごおり）をつくります。冷却パイプが隠れる程度までひたすら水を撒くのですが、これを手作業で行うのです。

—お風呂の湯を張るようにバシャバシャ流す、あるいはスプリンクラーで自動的に、というわけではないのですね。

奥村　そう簡単にはいきません。均等な厚みで氷が張るよう微調整しないといけませんから、隅から隅まで丁寧に、水を撒きます。薄い膜のように凍ったら状態を確かめるために手で触ったり、目で確認したり。納得できたら水を撒き、薄氷ができたら確認をして…。

—氷の層を積み重ねていく感じかな。

奥村　根氷ができたら整氷車で氷表面のアクを取り、氷の上から白く塗装。アイスホッケーのラインを引いた後、再び水撒きと確認を繰返し、約10cmの厚みにします。一層の厚さが1mmほどですので、作業はおよそ100回になる計算です。

—聞いているだけで気が遠くなりそう（苦笑）。

奥村　完成まで約1ヶ月かかりますが、まだまだ気は抜けません。いざオープンすると、スケートのブレードで傷ができるため、毎日整氷を数回実施。整氷後も氷の表面をチェックし、まだ傷があれば手作業で埋めます。外気温や入場者数によって氷のコンディションも刻々と変化しますから、つねに注意が必要。硬すぎず、柔らかすぎずを心掛けています。

—えっ、柔らかい氷って!?

奥村　見た目はもちろん触ってもわかりません。ただ実際に滑ってみると、エッジの効き具合が違うんです。それに氷の仕上がり具合は作り手によっても異なるんですよ。同じ場所、同じ手順で作っても、まったく同じ氷は決してできない。この仕事に就いて20年以上になりますが、今もベストな氷になるように模作しています。

—ここでは国際大会も開催されますが…。

奥村　一般開放時とフィギュア、ショートトラックでも氷の質を変えるんですが、大会で良い記録が出た時は自信につながりますね。以前、ここで「四大陸フィギュアスケート選手権」が開かれた際、大会の整氷責任者に「素晴らしい出来栄えですね」とお言葉をいただいた時には感激しました。一般向けには、とにかく安全面を優先しています。アイススケートは老若男女を問わず楽しめるスポーツ。この冬も大阪プールのリンクで、たくさんの笑顔に会えることを楽しみにしています。

Special Interview
スペシャルインタビュー

奥村　健一さん
おくむら　けんいち
大阪プール
運営業務担当

スケート場ができるまで

1
まだプールの状態です。50m プールと、飛び込みプールの水約8,000tを3日間かけて抜きます。

2
プールサイドより約30cm高くプールの床を上げます。木材を使用し、60m×30m の大きさのスケートリンクの底面を作ります。

3
床の上をシートや断熱材などで養生しパイプを750本並べます。パイプの中に不凍液を流し入れます。

4
不凍液が約-6℃になったらパイプが隠れるくらいまで水をまきます。最終的に不凍液は約 -13℃まで下げます。

5
3日間くらいで凍ります。氷の厚さは、約 5cmです。すべてのパイプが隠れているか、氷の弱い場所は無いか等の最終確認を行います。

6
凍った氷の上から塗装します。特殊な塗料を撒き、ムラなく全面が均等な色になるように注意しながら行います。

7
アイスホッケーのラインを引き、上から少しづつ水をまきます。5日間で約4cmの厚みの氷を作ります。

8
完成！
アイススケート場の完成！
氷の厚さは約 9cm～10cm になります。最終チェックを行い、スケート場のオープンを迎えます。